

様式第 4 号（第11項関係）

西脇市審議会等の会議の記録

審議会等の名称	令和 8 年度第 2 回西脇市就学前教育・保育の質の向上推進委員会
開催日時	令和 8 年 8 月 28 日（金） 午前10時～12時
開催場所	市役所 中会議室
出席委員の氏名又は人数（敬称略）	瀧川光治、鈴木正敏、松尾寛子、蘆田圭、藤井雅子
欠席委員の氏名又は人数（敬称略）	－
出席職員の職・氏名又は人数	教育長 遠藤一博 教育創造部長 萩原靖久 学校教育課学校教育担当主幹 兼 教育研究室長 伊原正貴 幼保連携課長 上田歌織 幼児教育センター長 橋本恭代 幼保連携課（幼児教育センター）小林木綿子 幼保連携課（幼児教育センター）西村麻衣子 幼保連携課（幼児教育センター）前田玲佳
公開・非公開の別	非公開
非公開の理由	個人情報に配慮するため
協議又は協議事項	(1) 第 1 回視察訪問について（報告） (2) 今年度事業の評価報告について (3) その他
会議の記録（概要）	
発言者	内 容
事務局	1 開会
教育長	2 あいさつ
事務局	（資料確認） ここからの進行は、委員長にお願いする。
委員長	3 第 1 回視察訪問について（報告）

事務局	事務局説明 ・資料1「各園の今年度目標・特色等（まとめ）」 ・資料2「令和8年度西脇市就学前教育推進事業第1回視察訪問の様子」
各委員	【園①保育】 園長先生から、昨年度自園で独自のアプローチカリキュラム作り、今年度はそれを土台に6月から研修を始める予定だと聞いた。昨年度と同じ取組を繰り返すのではなく、子どもの姿をよく見た上で今年度の取組を考えると良いと伝えた。 0歳児はコーナーを区切ってしまわず子どもたちが興味のある方向へ自由に移動できる環境を作られていたので、そこはとても良くなった。 1歳児は「こんなことをすると危ない」「別の場所で遊んでほしい」と先生が思う行動も、子どもたちの発達の姿だと捉えてほしいと伝えた。例えば、投げて困るのであれば投げて遊べる玩具を置く等、環境設定を工夫されてはどうかと提案した。 2歳児は風船遊びをしていた。先生方は子どもたちが様々な遊びに興味をもてるように工夫した遊びを提案されていた。ままごとコーナーには、もう少し調理器具を増やし、絵本コーナーには床に座って絵本が見られるスペースも必要だと伝えた。また、室内で体を動かせる遊びとして、段ボールの仕掛けでボールや車を転がし、取りに行くという活動を繰り返す、一方向性の遊びを提案した。 3歳児は、棚の扉がいつも閉まっているので開けておくのと良いと提案した。ままごと遊びでは見立て遊びができる子がいるように見受けられたので、もう少し見立て遊びができるような素材を多く置くと良いのではないかと話した。 4歳児は発達の差が大きいので、先生が課題をもって関わっておられた。玩具も子どもたちの発達に応じて出し、特に大きな問題はないと思った。まだまだ幼いクラスのようなので、子どもに応じた感触遊びが楽しめる素材を用意されていた。感触そのものを楽しみたい子、それを使って制作したい子など様々だと思うが、今は感触遊びを楽しみたいということで良いのではないかと伝えた。 5歳児は、昨年度「フェスタ」で作品を販売をされたので、今年度も出店されるのか伺った。今、子どもたちが取り組んでいる押し花からフェスタにつながるように、レジンを使ったキーホルダーや

今流行りのプクプクシール等、何か制作すると良いのではないかと提案した。

全体として、絵本がもう少し充実した方が良いと思い、西脇市の図書館には、1ヶ月ごとに入れ替えをしてもらえるシステムがあるので活用してはどうかと話した。

【特支全体について】

全体の園を通じて伝えたいことが2点ある。

視察訪問をさせていただくにあたって意識したことで、1点目は、気になる子に担任や加配の先生がべったりしすぎなくてよいということ。もう1点が、気になる子への先生方の関わり自体が、他児のモデルになっているので、お手本として、自信をもって関わってほしいということだ。

【園①特支】

3歳児は対人距離が気になるという相談だった。当日はチームごとにサーキットをしていたが、その時は順番に並んで参加できていた。3歳児は距離をとることは難しい。対象児だけでなく皆べったりしていたが、友達にやめてと言われると離れたので、それで良いと伝えた。

4歳児は小麦粉粘土に夢中で取り組んでいて対象児も全然気にならなかった。夢中で取り組める活動があるのは良いと話した。先生方が気になる場面は、活動の中ではなく普段の生活場面の中にあるかもしれないので、そういう場面を見せてほしいと感じた。

【園②保育】

今年度は、従業員満足度を意識をされてES研修に取り組んでいくとお聞きした。

0, 1歳児は子どもの発達に合わせて壁等を利用して子どもたちが立ってペタペタ貼って遊ぶことができるなど、いろいろな面で環境づくりの工夫をされていた。

2歳児は、描画の発達で「グルグル丸」という段階と「丸が閉じてくる」という段階があるように個人差が大きいので、まだ今の時期は個人差に応じてされたらよいことと、一生懸命集団をつないでいこうとしなくてもよいということを話した。担任に「先生と共に楽しむ」という視点がもう少しあった方が良いとアドバイスした。

3歳児は、今年度の新入園児が7人おり、0～2歳児から園生活を経験してきた子どもたちとの経験の差が見られるという相談だったので、1学期の間は、その差を埋めるのではなく、一人一人に応じて関わっていく必要があると話した。

4歳児はカプラ等を使い、グループで街作りをしていた。グループでの取組が1年生の図画工作の教科書に出てくるものに似ていたもので、その視点から少しアドバイスをした。その時担任から「遊んだカプラが散らばった中で振り返りをしたが、それで良かったのか」という質問があった。4歳児は片付けた後、「カプラでどんな遊びをしたの」と聞いても思い出せないのも、カプラがある状態で、自分たちがここで何をしたということをしっかりと話ができることが大事なのだと伝えた。一律に片付けた後に振り返りをするのではなく、目的に応じて振り返りの在り方を変えていくと良いと話した。

5歳児は様々な表現遊びをしていた。振り返りについては、「こどもかいぎ」のショートムービーを見ていただき、今後の振り返りの在り方が単純に活動だけの振り返りではなく、「好きなものは何だろう」や「なんで」ということ等も話題にすると良いのではと伝えた。活動の振り返りだけが続けているとマンネリ化していきがちなので、「活動を振り返ること」と「子どもたちが対話する楽しさを感じる」ということを考えた時に、「こどもかいぎ」のようなものも入れてみると良いのではと提案した。

【園②特支】

2歳児は、姿勢と運動面の発達が幼く、体幹が弱いという相談だった。目だけで物を捉えることが難しく、目の動きに合わせて頭も動かして物を追っているという印象だったが、物や人への興味は育っていて、真似も出てきていたので今後が楽しみだと話した。先生方が「紐を引っ張って遊ぶ」というような玩具も考えておられ、とても良いと思った。

3歳児は前に出て発表したい意欲はあるが言葉が幼いのでできないという相談だった。対象児に限らず3歳児が言葉で全部表現することはまだ難しいので、言葉で伝えることだけではなく、ノンバーバルで伝わる部分がたくさんあり、そういうコミュニケーションも大事だということと、こういう子が意欲的に前に出た時に、どう活躍させていくかを考えていくと良いと話した。

4歳児は吃音の相談だった。吃音は周囲の理解が必要だと伝え資料を渡した。対象児は手遊びの時にも、しっかり声を出して楽しんで参加し、友達に「玩具貸して」と言われたら「いいよ」と答える等、他児との関わりも見られ良いと思った。指導としては、話し方よりも「内容が分かるか」「相手に伝わるか」ということが大事だと伝えた。また、話すことよりも、この子が何に興味をもち、どのような場面で楽しんで笑うのかを捉え、楽しく人と関われる経験を大切にしてほしいと伝えた。

【園③保育】

今年度は新任の先生を3名迎えたということもあり、無理をしすぎず園内でいろいろと見直し、無駄を省き、職員の負担を減らしながら保育の質はしっかり維持していきたいと考えておられた。

0歳児は、発達に応じて一生懸命環境を考えて工夫されていた。めくって遊べる環境で、壁を利用して子どもがめくると中から動物等が出てくるような仕掛けがあったら良いと話した。

1歳児は室内で手指や体を使う手作り玩具を教えてほしいということで、定番のミルク缶に物を入れて引っ張り出す遊び等がもう少しあったら良いと話した。また既製品の玩具で揃えようとするのか、一人一人の発達段階に合った手作り玩具も考えるのかということで、そのバランスが必要だと伝えた。

2歳児は小麦粉粘土で遊んでいた。今の活動を秋以降も継続すると良いと話した。

3歳児は、生き生きと遊んでいるが、個人差が大きく生活のルーティンが上手く流れていかないことに課題をもたれていた。認定こども園は途中入園、新入園児がいるので、一律に0～2歳児を園で過ごしてきた子どもと一緒に扱うということとはできないと伝えた。子どもが主体的に遊ぶということを大事にし過ぎようすると、先生はどうしても見守ってしまうことがあるのもう少し先生が3歳児の中に入って一緒に遊んだら良いと話した。

4歳児は今後の遊びをどう発展させていけば良いかという悩みだった。次の改訂を見据えた時に遊びの広がりではなく深まりというキーワードがあるので、どんどんリニューアルしていくというよりも今やっている遊びの継続性という話をした。

5歳児はタケノコの皮を剥き、皮自体を見たり触れたり匂ったりと五感で感じる活動をしていた。最終は食育につながっていくと聞

き、良いと思った。担任は、全体的に幼く自信がない子が多いと感じていた。これは1つはコロナ禍での子どもの出生ということで偏りがあるところもあると思う。もう1つは子どもたちにもっと心動くような経験の中で肯定的な言葉をかけていくと良いと話し、スモールステップで「できた」と感じられる活動を積極的に取り組まれたら良いのではと伝えた。

【園③特支】

2歳児は水道のシンクに残った水を手で外へはじき出すという相談だった。訪問した日もわずかに残っている水滴を部屋の明るい方に向けて飛ばしていた。聞くと外で砂遊びの時も砂をパーッと舞い上げるそう。本児には舞い散る砂や水に光がきらきらする様が美しいのだと思うと伝えた。先生方の関わり方はとても上手で、手を洗って拭くと、水道と本人の間に先生が入って「終わり」を示しておられた。人手をかけずにできる対応としては水道の手前に柵を置く等、視覚的に遮断する物があると良いと伝えた。

4歳児は負けると怒り、感情のコントロールが難しいという相談だった。訪問日も椅子取りゲームをしていて、始めは楽しく参加していたが、負けて怒る場面があった。そばに行った先生を叩いたり体当たりしたりする場面が見られ、その後部屋の隅で柵をガタガタしながら全体を見ていた。そういう時には、過剰に関わるのではなく、1人でクールダウンできる場所があると良いと伝えた。三輪車のルールについて悩まれていたが、免許証を作り約束が守れるようにしておられ、すごく良いと思った。悩みはすでに解決をされていた。

5歳児の対象児は、靴のチャックの開け閉めも自分でしなかったが、先生方はできると信じて生活面から丁寧に指導された。今は着替えも自分でしており、靴下も表裏をひっくり返してるのには驚いた。伸びているところを見せていただきうれしかった。

【園④保育】

0歳児はスペースが広めなので、部屋の隅などをうまく使ってもう少しいろいろなコーナーを作ってはどうかと伝えた。

2歳児は遊びが豊かに進んでいて、作った眼鏡をかけたり、風船で遊ぶ等、コーナーがすごく充実していて、先生も遊びの企画が楽しくできていると思った。それが他クラスにも広がったら良いと思

	う。参考になるように別の園のままごとコーナーの写真も見せた。 3歳児はままごとコーナーです。コーナー遊びがなかなか続かないので少し改善をお願いしたいと伝えた。 4歳児はテーマに沿って制作をしていた。企画としてはなかなか良く、ハサミの使い方もまあまあできていたのですが、いきなり担任が準備した紙の葉っぱを見て、葉っぱの形を描くということは難しい。イメージが湧くように、実際の葉っぱを置いてなぞったり、葉のこすり出しをしたりする等工夫が必要だと伝えた。 5歳児はカラスが畑に食べに来ているので、対応策を考えていた。課題が出てきた時にそれをどう解決するかを、皆（グループ）で考えていくと協同性が育つので、その辺の企画ができるようになってきたら楽しくなるだろう。やりたい気持ちはあるが、どう具体的に進めるのかというところで苦勞されていたので1人で考えるとどう組み立てたら良いか分からないので横のつながりをつくり、お互いに話し合うと良いと話した。管理職にもその辺りの改善があると良いのではないかと伝えた。 【園④特支】 3歳児はパニックがある子の相談だった。アンパンマンの色塗りをしていたが、隣り合うパーツは全部色を変えて塗ったり、はみ出さないようにきっちり塗ったりしていた。お絵描き帳にはシールをずらっときれいに並べて貼っていたので、細部に注意が向いてしまい、全体のバランスを見ることが難しいかもしれないと伝えた。この子はきっちりしたい子だと思うが、クラスの遊びのルールや枠が分からないからマイルールになりパニックになってしまうのではないかと伝えた。 4歳児はここ2～3年見せていただいている子です。言葉はまだ幼いが、コミュニケーションがとれるようになってきたし、活動の切り換えや、座って待つこともできるようになってきており成長を感じた。絵もよく描けるようになってきたなと感じた。 このクラスでは絵本を読み聞かせしながら、『ら』の付く言葉は何がある？』という活動をされていた。文字への興味を育てていく場面には大事だが、大人が文字や形を与えなければいけないと思わない方が良いと伝えた。
--	--

【園⑤保育】

エネルギーが豊富な先生が多い。また、先生方の思いがそのまま実現していくことができるような園だ。

1歳児は、子どもたちの活動に合わせたコーナー作りがなされていた。これからアイスクリームも作りたいと話されていた。この環境が先生のゆとりにつながり、ゆとりをもって保育をされていて良い。「参観日はどうしたら良いか」という行事のあり方についての質問があったので、「見せ場」をつくるよりも親子参加型にしてはどうかと提案をした。

2歳児は、低月齢児が多かったが様々な遊びを楽しんでいた。保育室にある牛乳パックで作った車は、2歳児が遊ぶには少し大きく重いように感じた。1人乗りの少し小さい車もあれば良いと伝えた。ドキュメンテーションについては、もう少し子どもの見取りが入ると良いと話した。

3歳児は、ままごとの素材を増やすことを勧めた。手作りの洗濯機があり、よく遊んでいたが、人形を干している子もいた。「干したい」という気持ちを満たすためにはタオルなど、少し干せる物を増やしてみると良いと伝えた。

4歳児は、支援の必要な子が多く、2人の先生で保育されるのは少し大変かと思うので、人員配置の面でもう少し手厚くされても良いのではと話した。

5歳児は楽しい取組をしていた。タケノコに触れたりバブルアートをしたり、戸外での泥団子の的あてをしたりと先生がおもしろいと思うことを積極的に活動に取り入れられていて良いと話した。例年、地域の方と一緒に織物体験をして作品を作られているようなので、作品を子どもたちが販売する機会を作ったり、織物を好きな遊びの中で発展させたりできると良いのではと伝えた。

【園⑤特支】

3歳児は、活動の切り換えについての相談だった。洗濯バサミの入ったかごを片付けようとしていた時に、友達が先に片付けてしまったことに対して叩いてすねるという場面があった。先生方も片付けがしたかったことを理解されていたので、もう1度片付けのやり直しをさせてもらっていた。また、先生の援助の中で特に良かったのは、先生が手遊びをしながら本児が入ってくることを皆で待てるような声かけをされていたことだ。良い雰囲気だと思った。

4歳児は、活動からの逸脱があり保育室から出て行くことについての相談だった。走って逃げた時に、大人が走って追いかけると後ろを振り返りながらうれしそうに逃げる。大人が追いかけると「保育室から出ると大人が関わってくれる」ということになる。静かに教室に戻し、本児が座った時に褒めたり、待ってる他児を褒めたり、全員が揃ったら全体を褒めたりというように、適切な行動をしている時に評価が得られると良いと話をした。

【園⑥保育】

乳児クラスから幼児クラスまでとても頑張っておられた。

特に0,1歳児クラス的环境が素晴らしい。1人用のボールプールで遊べたり、少し隠れることができる箱があったりして、元気に遊ぶ場所と、落ち着く場所と手先を使って遊ぶ場所があった。先生方のチームワークが良く、子どもたちが自由に生き生きと遊んでいた。養生テープで壁に張ってある玩具があり、すぐ剥がれるという相談があったので、ワイヤーネットを使うと良いと伝えた。

2歳児は、コーナー遊びと手作り玩具が良かった。0,1,2歳児クラス的环境は、少し遊び方を考えていければと思う所もあったが、楽しい環境作りがなされており、概ね良かったと思う。

3歳児は、遊びの構成がとても良かった。工事現場コーナーがあり盛り上がっていた。車コーナーはシートベルト付きの座席が並んでいた。先生がよく考えておられ、作ることも好きなのだと感じた。とてもおもしろかった。

4歳児は、イメージの共有について課題があった。ボーリングコーナーや、ライブごっこはあるが、少し盛り上がりには欠けていた。時期もあると思うが、忍者コーナーもイメージの共有が少し足りていないので、そこを少し頑張ってもらいたいと思い伝えた。

5歳児は、スライムを作ったり小麦粉粘土を作ったりしていたが、目分量で作っていたので、計量カップやスケールを使うことを勧めた。また、5歳児なりに「自分たちがやったことを客観的に見る」ということが若干少ないため、もう少しそこを入れていくと小学校の活動につながると話をした。

【園⑥特支】

4歳児は、落ち着きにくい場面で起こるトラブルについての相談だった。訪問時は、一人で遊んでいる時は穏やかに遊んでいたが、

他児と遊んでいる時は他児がはしゃぐと、本児もはしゃぐ姿が見られた。落ち着かないのは周りの刺激や環境がそうさせているかもしれないと話をした。次は、集団での活動に参加しにくいことについての相談だった。絵本の読み聞かせでは、最初は動きが止まらなかったが、緑のテープが貼ってある定位置で絵本を見たり、絵本のそばで言葉を発したりして参加していた。しかし、歌が始まると離れてしまい参加しなかった。言語面が弱い子は、見て分かる活動は参加しやすいが、聞いて参加する活動はしんどさがあるのだろう。

「うみ」を歌う時には、海のイラストを出すなど、少しイメージを補足すると良いと伝えた。

5歳児は「この子はすごく一生懸命やっているが、困っている」という考え方をされており、本児の良さを何とか引き出してやりたいというとてもポジティブな相談だった。先生がその考え方をされていてとてもうれしいと話をした。

【園⑦保育】

今年度から異年齢保育に積極的に取り組み始めたと言われていた。取り組む中で難しさを感じるところもあるので、今年度は模索し、良いと思うことと少し違和感があると思うことを書き留めて、どう改善したかを今年度資料として残しておくことで、次年度につながるのではないかと話をした。

保育園やこども園では、途中入園があり、月齢の差や園での経験の差が違ってくる。0歳児の保育室は区切られた空間と、開放的な空間があるが、月齢や経験の差がある中で、多くの子が区切られた空間だけで過ごしていると人口密度が高くなり、少し息苦しく感じる。自由に行き来できるようにした方が良いと伝えた。0歳児は寝た状態からハイハイができるようになり、体を動かし始める。そこを保障していくことが、体づくりや、成長発達にもつながるのだと話をした。狭い空間で過ごすことが、落ち着くことにつながると思っておられたのではないかと感じた。

1歳児は、言葉の発達と噛みつきについての相談だった。「はらぺこあおむし」のぽっとな落としができる手作り玩具は見守る先生と遊ぶ子どもが集まると、密集度が高くなり噛みつきが発生しやすくなる。遊びたいと思っている子が一生懸命遊ぶと独り占めしてしまうことになり、他児が遊びたいと思った時に押し合い等になってしまうことも考えられるので、遊びを1ヶ所から2,3ヶ所に分散

	させることを提案した。 2歳児は、遊びの環境についての質問があったので、棚に置いてあるケースに何が入っているのか、子どもが見えるようにしてはどうかと話した。また、キッチンセットは子ども用テーブルの上に木でできているキッチンセットが置いてある。その後ろにかごに入った食材の玩具等が置かれており、子どもが背伸びをして奥の物を取らないといけない状況だった。かごを斜めにして子どもが取りやすいようにすることを提案した。 3歳児は制作コーナーを常設し、自分で素材を選んで遊ぶことができるようにされていたが、3歳児クラスの7月では、まだ子どもたちのイメージが湧きにくく、活用しにくいと思った。今は、はさみを使って切るということだけでも楽しい時期であり、子どもが勝手に使えるようにするだけではなく、先生も一緒に作ることに、秋以降コーナーに簡単な工作の本などを置くことをすすめた。 4歳児で良いと思ったところは「オタマジャクシが大きくなったら何になる」と、YouTubeを活用して鳴き声当てクイズ等をされていたところだ。いわゆるICT活用をされていた。生き物をテーマにされていたので、環境作りの参考に他園の環境の写真を紹介した。 5歳児は、ダンゴムシの快適なすみかについて話し合っている際に、ドキュメンテーションを子ども向けに子どもと一緒に作っておられるところが良かった。子どもが気付いたことや感じたことを聞き、その場で即興的に作り、後で振り返りに使われていた。工夫されていると思った。 異年齢保育は、関わりがもてるように保育形態を工夫されているが、なかなか混じり合いにくいところもある。小学校でも1年生から6年生までが校庭で一緒に1時間過ごしても、勝手に混じり合うことはない。そう考えると先生がつなぎ役になり、コーナーに集まることなどをされたら良いと話をした。 【園⑦特支】 1歳児は、物や場へのこだわりが強いことに対しての相談だった。当日対象児は欠席だった。普段は部屋の隅にすることが多く、壁に背を向けていると言われていた。もしかすると、全体を把握できる場所を選んでいるのかもしれないと伝えた。 3歳児は「今だよ」と背中を押してもらおうと、ピアノに合わせて
--	--

クマ歩きをするなど、友達のまねをして楽しそうに参加をしていた。お茶が飲みにくいということだったが、お茶をコップに少量入れたものを本人に見せて、先生が持ったまま1口飲ませる。その後先生がコップを持たせると、自分で飲むという援助をされており、この手順がとても丁寧で分かりやすく上手に関わられていると伝えた。

5歳児は、周りが気になるとすべきことを忘れることについての相談だった。様子を見ると、順番をよく守り、遊びのルールも分かっている、友達にも注意をしながら参加をしていた。片付けの合図があると、1番に他児に声をかけ、片付けをしてすごいと思った。友達が部屋に帰ろうと走ると、後に付いて走って行った。その時、片付けようと思って持っていたスコップのような物を、手を開いて落として走って行く場面があった。「お部屋に！」と思った瞬間にスコップのことが頭から抜け落ちたのかなという印象だった。ワーキングメモリの弱さをどう支えるかだと思う。先生が「落ちたよ」と声をかけられ戻って片付けをしていたので、それで良かったと思う。

【園⑧保育】

0, 1, 2歳児は、とても落ち着いていた。また、楽しい遊びも増えてきている。0歳児は環境が良くなっていた。1歳児は、新聞で楽しく遊んでいた。2歳児はグループに分かれて活動し、落ち着いてきた。コーナー遊びについては若干課題があったが、設定保育の遊びについては風船遊びをしたり、新聞遊びをしたりして楽しく過ごしていて良かった。

3歳児は、コーナーが落ち着いていた。また、トイレットペーパーの芯で城を作る活動をしており、訪問時はその準備段階を見た。トイレットペーパーの芯を集めた数だけシールを貼り、100個集めることを目標にしていた。3歳児は100という数の概念がないが、イメージしやすいようにシールで示していた。また、シールが貼りたいという気持ちから、家庭からトイレットペーパーの芯を持ってきた。先生が子どもたちの達成感や数の概念や数量について考え、意図をもち活動をされていて良いと思った。また、子どもの姿を見て予定していた活動内容を少し変えたり、落ち着けるように絵本の読み聞かせを入れてみたりと柔軟に対応されていて、力をつけてこられたと思った。

4歳児は廃材を使った遊びをしていた。1人で制作をしていたが設計図を描き集中して活動ができるようになっていたので良いと思った。これから動物園へ遠足に行く予定があり帰ってきたら、今度はグループで制作をするのではと考え、見通しをもたれていて、すばらしいと思った。制作に使う箱の硬さや切れやすさを、子どもが分析し字を書いたものが貼ってあった。子どもたちが考えてしたことが取り入れられていて良いと思った。「猛獣狩り」は慣れてきて6や7くらいの長い文字数でも、音節に分けて数え、遊んでいた。また、双眼鏡などを作り「猛獣狩り」の遊びで使い「作って遊ぶ」ことができていた。先生方の中で、「遊びのつながり」という考えが出てきて本当に良かったと思っている。

5歳児はお店屋さんごっこをしていた。グループでじっくり考える時間と、他児に意見を求め、手伝ってもらう時間がもてていた。公開保育後、さらにもう少し深めていくための方法について研修をしたので、もう少し深まっていくのではないかと思う。また、グループは子どもたちが自然に集まってできているので、リーダー格の子たちが集まっているグループとなかなか遊びが進みにくいグループと両方あり、進みにくいグループには1つ1つ先生が助言やヒントを入れながら進められていた。個々の育ちをしっかりと考えて保育をされていると思った。

【園⑧特支】

5歳児2名の相談だったが、移動時に長時間同じ場所で並んで待つことができていた。ひどく逸脱することもなく、移動も並んで行っていた。集団のルールや枠がよく分かっていると思った。

もう一人は4月から就園し、緊張や不安はかなり高いと感じた。加えて、見えないものは分からないのだろうと感じるところがあった。皆で輪になりダンスをする時に、自分の立ち位置や友達との距離感が分からず不安そうだった。先生が一人一人の足元に黄色いテープを貼られたことで、少し安心した様子だった。先生方が言っていることを忠実にやろうとしていることも伝えた。2人で手をつないで戻る場面では、手をつなぐと、することや行く場所等が分かりやすく安心した様子が見えたので伝えた。

【園小接続内容】

今年初めて全園訪問し、大変勉強になった。今までは小学校1年

	生と隣接する園の5歳児の交流はよくしていたが、0歳児からの取組を見せていただくことで、それぞれの園の良さがよく分かった。子どもたちが生き生き、伸び伸び、笑顔いっぱい活動している姿を見ると私たちも元気になった。また、先生方の保育への情熱や愛情いっぱいの工夫を見ることができた。小学校でも1年生から6年生までの成長度合は全然違うように0歳児から5歳児も全く違うので、月齢差や年齢の成長度合いに合わせた様々な環境や工夫が凝らしてあると感じた。こども園で身に付いた力を小学校も十分に理解して、スムーズに学習や生活につなげていくことが本当に大事だと肌で感じた。子どもが小学校に上がった時に、安心して学校生活を送ることができたり自信をもって学んだり、遊んだり、挑戦したりしていくことにつながると良いと感じた。 私がこども園を訪問して気付いたことが6点あります。 1つ目がどの園も年齢に応じた成長過程をしっかりと捉え、保育内容や玩具、コーナー、それから教室環境がとても工夫されていたということ。 2つ目がどの園も、教え込むのではなく、子どもの「やってみよう」「やりたい」という気持ちを尊重し、自ら考え挑戦できるような取組や支援をされていたこと。大人がすぐに答えを教えるのではなく、「なぜだろう」と問いかけることで、子どもが試行錯誤する姿が見られた。成功体験による自己肯定感・自己有用感の育成に加え、失敗も成長の機会として大切にする取組であり、小学校教員にもぜひ見てほしい内容であった。 3つ目が、幼児期は、まず自分のことから始まり、3～4歳児頃になると徐々に周りの友達が見えてきて一緒に活動できるようになる等、成長過程が見えてきた。そういうことも小学校教員にも理解してほしいと思う。小学校でも個人差はあり、年齢が上がったからといって、全てが周りの子と一緒にできるわけではないので、これまでの成長過程を踏まえ、子ども一人一人のペースに応じた支援を行う必要があると思った。 4つ目が、遊びを通して心や体を育む保育をされているのが分かった。昨日の公開保育で講師が「保育は『生活をする』が基盤」と言われていたが、子どもたちは生活の中で様々なことを経験し、自然に学び、身に付けていくのだと改めて感じた。小学校の次期指導要領の中でも「好きを育み、得意を伸ばす」という言葉が出てきているがすごく大事だと感じる。自分の好きなことに挑戦し、得意な
--	---

事務局	ことが見付き成長していける、そういうチャレンジできるような取組が、こども園から小中学校も全部含めてできていたら良いと思った。 5つ目が、4, 5歳児頃になると言葉で伝えるという活動もたくさんされてるのだと感じた。小学校1年生でもなかなか言葉が出てこない子もあるが、先生方は子どもの気持ちを汲み取り、丁寧に言葉にして代弁し、根気強く関わられており、小学校教諭も学ぶべきところだと思った。 6つ目が、野菜等の栽培活動だ。体験活動や食育も含めて日常生活の中で、五感をたくさん使って、家ではなかなかできない体験をしていると思った。こんな環境の中で育った子どもが小学校に入学し、その芽を摘まないように、またこども園で身に付けた力をいかに伸ばしていけるかを先生方も私たちも共通理解、情報共有しながら小学校へスムーズに接続していくというこの活動を大事にしていきたいと思う。夏休み期間中の公開保育に小学校1年生担任だけでなく、多くの教員、管理職が参加することはすごく良い取組だと思う。頭では何となく理解していても、実際見るのとは全然違うので、環境や保育を公開していただくことはとても良いことだと思う。これは小学校へのスムーズな接続につながる西脇市の取組だと改めて感じたので、学んだことを今後職員にも伝えていきたいと思った。 委員の皆様の鋭い視点、それからご助言を聞き、同じ場面や子どもたちの様子を見ても、これだけ得られることが違うということに驚くとともに、西脇市の保育を進めていく上で非常に有益なことであり、お力を貸していただいていることをうれしく思った。第1回の視察訪問は、たくさんの園に行くことができなかった。ある園の園長先生が「前年度のまね、踏襲ではなく子どもたちに応じた取組が大切だ」と言われたのが印象的だった。ねらいが抜けた取組の形骸化は子どもたちにとって良くないことなので、目の前の子ども一人一人を大切にしたいという強い思いを込めて話をされていた。園の先生方が、子ども一人一人の様子や興味をよく観察し、それぞれに合った遊びや関わりを考え工夫するなど、意図をもって保育されていることが、どの保育室からも伝わってきた。 今年も夏休み期間中に小学校の先生方がこども園の保育を参観した。小学校の教師がこども園の先生方の保育のねらいや工夫を理解
-----	--

	することは、就学前で育てられた子どもたちの成長や良さを引き継いで伸ばす西脇市の教育につながると感じたし、そこが良さなのだったと思った。 今回訪問していく中で質の向上推進委員会として考えていた質がどんどん上がってきていると感じ、西脇市の取組を継続して良かったと実感している。皆さんの報告を聞き、次に考えていくべきことはそれぞれの園が自走して質の向上をしていけるような支援をすることで、そういうところにフェーズが変わってきたのではないかと考えた。初期段階（10年前）と比べたら、各園の良い取り組みや成果が多く見られるようになった。今後は幼児教育センターとして、各園の特色や強みを生かし、うまく回転させていけるような支援の仕組みや仕掛けが必要かと考える。
事務局	2 第2回視察訪問（特別支援について） 事務局説明 資料3「後期スケジュール（日程追加）」 資料4「特別支援質問様式（案）（変更点）」 2回目の視察訪問時の提出資料について、1回目は、園日より、要覧、年間行事予定表、保健日より等、園通信を提出いただいたが2回目はどうするかお諮りいただきたい。併せてドキュメンテーションについて、1回目は視察訪問の資料郵送時に同封したが、2回目はデータは事前に送付するが、紙資料は当日配布でも良いかお諮りいただきたい。
委員長	園からの資料について、ドキュメンテーションは前回同様必要だが、それ以外はどうかということ。
委員	自由意思でよいのではないか。
委員	了
委員長	うなずいている委員が多いのでそうする。 ドキュメンテーションについてはデータの添付、印刷物は当日で

	よい。
事務局	3 今年度事業の評価報告について 事務局説明 資料5「令和8年度西脇市就学前教育・保育の質の向上推進委員会 報告書（案）」 ・教育・保育、特支、園小の入力について ・その他の各項目の入力について ・公表までの流れについて
委員長	教育・保育内容についての報告書には例年通りで良いか。園小連携と、特別支援について意見をお願いしたい。
委員	全園でお願いしたい。
委員長	では全園共通でお願いする。
委員	特別支援教育についても、全体でお願いしたい。
委員長	では昨年度同様、全体的に記入していただくということでお願いする。
事務局	承知した。 報告書作成のスケジュールを決めさせていただいた。各委員からの報告書を2月12日に幼児教育センター必着でお願いしたい。文字等統一させていただき返却するので、その内容について了承を得られたら、3月中に各園に報告書を送付したい。
委員	了 4 その他について
事務局	事務局説明 参考資料①「令和8年度公開保育アンケートについて」

	参考資料②「幼児教育センター通信『つなぐんVo1. 15, 16』『つなぐん保護者版Vo1. 1, 2』」 2つの参考資料について説明をする。 本年度から公開保育は2つの園に年1回開催を依頼した。6月にはつまこども園、そして昨日西脇こども園で実施をした。公開保育を午前中のみとし、午後からは実施園の研修時間とした。実施後、公開保育参加者アンケートと公開園のアンケートをとり、どちらも良い意見や、感想をいただいている。公開園では、「最初は緊張したけれどもやって良かった」という意見が多かった。参加者の意見は「自分の保育に取り入れたい」「参考になった」「見せてもらえて良かった」が多い。検討課題としては、良いところをたくさん伝えてもらいとてもうれしいが「保育を見てどうだったか」「私だったらこんなふうにしたかな」という参加者からのアドバイスもいただきたいという意見があり、前向きであると思った。「批判をされる」という捉えではなく、アドバイスとして受け止めたいと書かれておりうれしかった。そんな話し合いもできるように、センターとしても方法を考えていきたい。また、公開園が「見てもらうから何かしないといけない」「新しいことをしないといけない」と気負うことが多いため「そうではない」ということを今後も伝える必要がある。また要望として公開保育を見に行きたいという強い思いがあり「写真や短い動画等を見る機会があれば勉強になる」という意見もあるため、検討したい。公開保育に関する通信は出しているが、動画や写真等が視覚的に分かりやすく良いのかもしれない等、また良いアイデアがあれば伺いたい。 つなぐんについては、委員からアドバイスをいただき、保護者版を発行した。保護者版vol. 1の幼児教育センターについてと、vol. 2の園小接続の取組について分かりやすく絵にしたものを各保護者にペーパーで配布した。通常版vol. 15と16は、公開保育の様子と、公開保育後の5歳児の遊びについてまとめたもので各園と各小学校へ配布した。2つの資料について意見や感想を伺いたい。
委員長	アンケートとつなぐんについて一言ずつお願いする。
委員	「アドバイスが欲しい」という意見は前向きでとても良い。以前は「意見を言わないでほしい」という雰囲気だった。公開園側から

	聞きたいことを事前に示してあると、グループディスカッションの時に新しいアイデアがもらいやすい。アドバイスについての話し合いをグループディスカッションの後半2～3分にできれば良いと思う。ただ先生方が課題意識をもち、困ってるところや知りたいところや広げたいところが出てこないと難しいため、システム化されると良いと思う。
委員	保育について改善したい点があれば、意見として伝え合うだけでなく「本当はこうしたかったがうまくできなかった」と話し合いの中で担任が振り返る場も設けると良い。そうすることで、お互いの思いを理解し合い共感しながら話し合いをすすめることができると思う。
委員	園の人手や忙しさ等の原因で行けないこともあると思うが、人の保育を直接見ることで、自分の保育にプラスをすることが見つかるので大事だと思う。負担にならない程度にとも思うが、前向きな先生が多いので、保育を見たいと思われていると思う。
委員	ローテーションを組んだり隣の先生と交代したりするなど工夫をして、先生方が少しでも抜けられる時間を作り、同じ園内で隣のクラスの保育を見に行くなど学びの資源は園内にもまだまだ転がっていると感じる。また、先程話に出ていた動画や写真で見るところは参考になると思って聞いていた。園同士で保育を見合うことはとても大切だと思う。
委員長	アンケートから、公開保育について学びがいがあったのだと感じる。書かれているボリューム感から考えても良い保育だったというように思う。書くことがなければ少しおざなりな言葉が並ぶことがあるので、それだけ先生方の心が動いたのだと思って見た。自走していく、自分たちでやっていくためには、公開保育だけでなく、園内で自分たちの保育を見合うような機会を作ると、もっとアドバイスをする、アドバイスし合うというような園の文化になると思う 「10分でも良いから隣のクラスを見ませんか」というところから始めてみたら良いと思う。各園に提案いただきたい。つなぐん保護者版については園から反応はあったか。

事務局	まだ反応はない。ただ保護者一人一人に見てほしいと思い紙ベースで全部印刷したが、量も多く、少し配り方を考えようかと思っている。
委員長	今後「園小接続」や「幼児教育」について、保護者への啓発だけではなく、西脇市での取組についての内容や意図を伝えていくことが大事だと思う。あとは1～2月頃には保護者版を集中的に出し、3月に園のアンケートで園小接続の取組についての周知が昨年度の数値と比べてどう変わるかをみて、効果がなければ違う手立てを考えなければいけないと思う。保護者は園小の取組を知らないという意見があり園の自助努力だけでは周知はできにくいため、幼児教育センターとして、通信を発行し啓発した。啓発したにもかかわらず、数値が変わらないのであれば、何か他の要因があると思うので意図的に集中して取り組み、効果があるのか検証できればと思う。
委員	台湾は保護者向けの保育フェスティバルがあり、そこで最新の保育についてフェス形式で伝えるそう。西脇市の取組について良くなっているところを宣伝できることがあると良いと思う。特に入園前に各園の特色が出ているような保育のドキュメンテーション等を持ち寄って説明されると良い。こども園就職フェア等と一緒にすると良いのではないかな。
委員長	その他事務局の方で何かあるか。
事務局	5 次回開催予定 次回の会議は、令和9年1月21日（木）午前10時から西脇市役所3階大会議室での開催を予定している。第2回視察訪問の報告や、令和9年度視察訪問の資料などについてご協議いただきたいと考えている。 閉会の前に教育創造部長よりご挨拶申し上げます。
部長	あいさつ
事務局	6 閉会

	以上をもって、本日の会議を終了する。
--	--------------------